

<介護保険制度の施行状況等>

～介護保険サービス提供量の拡大とその背景～

- 2002（平成14）年12月のサービス利用状況をみると、介護保険制度施行前と比較して利用量が全体的に大きな伸びをみせている。
- 利用者は、2002年12月時点で居宅サービスの利用者は約194万人、施設サービスの利用者は約71万人となっている。
- 事業者数は全体的に増加している（図表1-3-11）。最も増加割合が大きいのは痴呆対応型共同生活介護（以下「痴呆性高齢者グループホーム」という。）であり、制度施行前と比較すると10倍に迫る増加率となっている。
- また、特定非営利活動法人（NPO法人）や営利法人が、訪問介護、通所介護や痴呆性高齢者グループホーム等を中心に大きく数を増やしてきている。

図表1-3-11 サービス類型ごとの事業者の増加の状況

サービスの種類	事業所、施設数		増加した割合
	2000年10月	2002年10月	
訪問介護	9,833	12,379	25.9%
訪問入浴介護	2,269	2,329	2.6%
訪問看護ステーション	4,730	4,996	5.6%
通所介護	8,037	10,534	31.1%
通所リハビリテーション	4,911	5,723	16.5%
短期入所生活介護	4,515	5,160	14.3%
短期入所療養介護	4,651	5,746	23.5%
痴呆対応型共同生活介護	675	2,233	230.8%
福祉用具貸与	2,685	4,114	53.2%
居宅介護支援	17,176	20,752	20.8%
介護老人福祉施設	4,463	4,876	9.3%
介護老人保健施設	2,667	2,874	7.8%
介護療養型医療施設	3,862	3,911	1.3%

資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「介護サービス施設・事業所調査」から政策統括官付政策評価官室作成
（*2000年10月は確定数、2002年10月は速報値である。）

～介護保険制度による高齢者・家族への影響～

- 厚生労働省老健局において取りまとめた調査によれば、サービスを使わない理由としては、「今のところ家族介護で何とかやっつけていける」「今のところ自分で何とかできる」という理由が最も多かった（図表1-3-14）。
- また、制度施行前と比べた現在の制度に対する評価を尋ねたところ、「家族の介護負担が軽くなった」という答えが最も多く、全体の4割となっているが、サービスの質やメニューに対する積極的な評価は全体の1割程度にとどまっており（図表1-3-15）、高齢者やその家族の満足度がより一層向上することを目指した努力が求められているといえるであろう。